

# 回生 ニュース

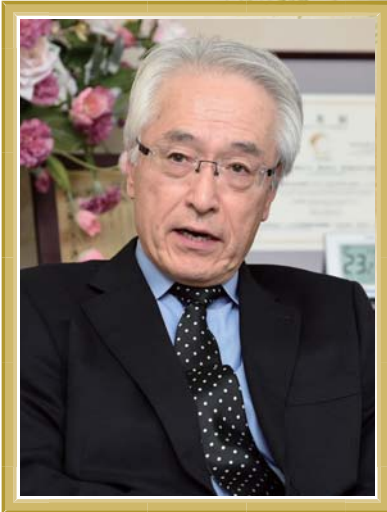
社会医療法人 峰和会

K a i s e i N e w s

80号

2015.1月発行

発行/社会医療法人 峰和会  
編集/鈴鹿回生病院  
所在地/鈴鹿市国府町112番地1  
TEL / 059-375-4212  
FAX / 059-375-1717  
URL / <http://www.kaiseihp.com>  
編集協力/TCNagoya



社会医療法人 峰和会  
理事長 長谷川 静生

# 迎春 2015

新年あけましておめでとうございます。

突然の解散総選挙で締めくくられた昨年、ちょうど2年前を彷彿とさせる2014年の年末でした。争点の一つが国民生活に関係の深いそして我々医療界にとっては重大関心事である消費税問題ということで、アベノミクスの行く末と共に成り行きが大いに気になるところでありました。昨年6月の医療介護総合確保推進法案の成立をもって、地域包括ケアシステムを中心に据えた今後の医療と介護の方向性が示され、現実一步が踏み出された訳であります。その社会保障制度改革の財源の大きな部分が消費税であった訳ですから、若干の不安を抱かざるを得ないのは仕方の無いことかもしれません。これからの政治の強い指導力に期待したいと思います。

昨年4月鈴鹿回生病院長、クリニック

院長の交代人事がありました。そして加藤公、田中公新両院長の下3名の副院長が新任となり、次期中期3ヶ年計画に備えた新体制がスタートしたわけでありませう。今後3年間で医療制度は大きく変わっていくでしょうが、その変化に対応してゆくには我々の立ち位置を再確認し、自分たちも変わる勇気を持たなくてはなりません。改正医療法の病床機能報告制度で回生病院は急性期医療を選択しました。地域の市民病院でありたいと願う私たちにとって、急性期医療の質を維持するための医療機器の更新整備が今後也不可欠でありませう。そして携わる現場スタッフの研鑽努力が必要なことは言うまでもありません。今後の制度変化は医療が医療の分野に止まらず、地域包括ケアミックスの中で地域の街づくりにも中心となって関わって行かなければならない時代がやってくるでしょう。鈴鹿市を始めとする行政との密な連携が益々重要になって

くると考えています。新執行部でこれらのことが少しずつ実現し新しい回生病院に成長していければ良いと思っています。

昨夏は死者も出るほどの酷暑でした。そして記録的な降雨による土砂災害や御嶽山、霧島山の相次ぐ火山噴火など異常気象による事故が続発しました。自然の前で人間の無力を改めて思い知らされた悲しい出来事ではありましたが、一方でスポーツの分野で世界に挑戦し羽ばたいた多くの若者の活躍や、未だ記憶に新しい3名の日本人ノーベル賞科学者誕生のニュースなど日本の将来に希望を抱かせてくれた明るい出来事も数多くありました。年末に打ち上げられた「はやぶさ2」もその一つ。今日目標に向かって一目散、ひたすら飛び続けています。私たち回生病院グループ職員一同も立ち止まることなく前進し続けてまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



# 両院長より新年のご挨拶



鈴鹿回生病院  
院長  
加藤 公

## 健康長寿を支援する 安全で良質な医療をめざして

新年あけましておめでとうございます。

私が院長に就任し、新体制となって、9ヶ月たちました。4月に行われた平成26年度診療報酬改定は実質マイナス改定であったと目されますが、職員一丸となって、それぞれの分野で役割をしっかりと果たしたことによって、最善の対策をとることができ、悪影響が最小限に抑えられました。それによって、医療の質を高いレベルに保ち、患者さんに還元することができたと自負しています。また、今年は昨年に引き続き、新たに7名の初期臨床研修医が来てくれることになりました。これからの三重県の医療を支えてくれる若い医師たちを育てることも私たちの重要な役割です。皆様のご協力をお願いいたします。

昨今、高齢化社会＝財政の破綻、日本は不幸な国になるといった最悪のシナリオが多く聞かれます。それって本当なのでしょうか。昔の人から見たら、別の国の人から見たら「健康長寿」は素晴らしいことであり、理想であって、日本は「理想郷」

になったという見方もできるのではないのでしょうか。わが国は目的をかなえたのです。今のこの日本に生まれ、ともにまた新たな年を迎えられたことに感謝いたしましょう。しかし、一方で超高齢化・少子化は、医療や介護を必要とする人を増やし、働き手を減らしてしまうことで、財政的に大きな社会問題となってわれわれに押し寄せて来ることも確かなことです。したがって、とくに医療分野にとってはきびしい医療制度改革は今後も続くことが予想されます。私たち職員は、これまで以上に、チームの一員として自分自身の分野に特化して、病院の総合力向上につなげていかねばならないと考えています。

今後も、鈴鹿回生病院は医療制度改革という波に飲み込まれないよう職員全員の力を結集し、病診連携の強化をはかりながら、地域に密着し、救急医療から専門的医療まで安全で良質な医療を提供させて頂けるよう取り組んでまいります。

## 安心と信頼の クリニックをめざして



鈴鹿回生病院附属クリニック  
院長  
田中 公

いつもより良い外来診療が提供できるように、職員皆で一生懸命心がけておりますが、昨年も外部の方をお願いして、患者さん満足度調査を行いました。接遇の面などでは、前回より良い評価をいただきましたが、残念ながら待ち時間については、一部に厳しいご意見もいただきました。ただ、皆様に満足していただくためには、丁寧な診療や十分な説明が必要ですので、どうしてもある程度の時間が必要となります。そのため待ち時間が長くなってしまうことがあります。3分間診療になってしまえば、質の高い医療を行えません。このように待ち時間短縮には難しい面がありますが、工夫しながら、皆様に満足していただけるよう改善に努めたいと思います。当クリニックの特徴は、一般の外来以外にそれぞれの専門的な医療を提供することです。例えば、内科であれば循環器、腎臓、消化器、肝臓、血液、呼吸器、糖尿病、腫瘍などの臓器別や疾患別の専門外来があります。このようにそれぞれの診療科で、特徴のある専門的な診療が行われています。また、どの診療科に受診したらよいか分からない時には、相談窓口でお話をうかがい、より適切と思われる科を勧め

めらせていただいておりますので、お気軽にご相談ください。これからも、特色を生かして、信頼していただける医療を提供し、そしていつでも安心して受診することができるクリニックを目指してまいります。

## 連携医療機関紹介

## 富田内科



▲ 院長の富田昌孝先生

## 開業35年のクリニックです。

富田内科は近鉄白子駅より徒歩5分ほどの便利な場所にあります。



院長の富田昌孝先生は、昭和63年（1988年）昭和大学医学部をご卒業後、昭和大学第3内科にご入局。その後昭和大学病院、総合荻窪病院、関東労災病院などの医療機関にて勤務されました。中でも急性心筋梗塞、狭心症、不整脈などの診療を中心にを行い、循環器内科医として研鑽を積まれました。

富田内科は、昭和54年（1979年）にご尊父さまが開業され、先生は二代目です。「父は、開業してわずか2年後の昭和56年に脳出血で倒れまして、医院の継続自体も厳しい時期がありました。何とか快復はしましたが、足を引きずりながら診療を続け、体力の限界を感じた平成11年から、私が診療に加わったのです。当初は『父じゃないとだめ』という患者さんもおられましたので、火曜の午後は父の診療でしたね。平成13年から、さすがに父も限界で、私1人での診療体制となりました」。

現在、先生を筆頭に、看護師4名、事務4名の9人体制で診療を行っています。

## 医師をめざしたきっかけ

ご尊父さまが倒れた当時、先生はまだ高校生でした。必死でリハビリをし診療を再開したご尊父さまには、大変な思いをして医学部に行かせてくれて感謝しているとおっしゃる先生に、医師をめざしたきっかけを伺うと、

「父が倒れ入院した際、脳の手術をしなければならぬとの診断が下されました。当時この近辺で手術は出来ず名古屋の病院で行い、その後のリハビリは伊豆の専門施設で行いました。全ての段取りを父の同期の先生方のご協力のもとで行っていただいたんですね。そのまま手術をせずにいたら、父は恐らく40代で寝たきりになっていました。父が診療出来ない時は医師仲間が手伝ってくれていました。父の医師の繋がりでも私たちが助けられたという感謝の気持ちと、自分も医師になり少しでも力になりたいと思ったのがきっかけかもしれませんね」。

## 睡眠時無呼吸症候群の治療に力を入れています。

この病気は循環器の疾患を起こしやすい、高血圧が薬を使ってもなかなか治らない、そんな時にこの病気がかかっていることがあるそうです。「簡単な問診をして、ちょっと小太り、アゴが小さい、いびきがひどい方などに対し、簡易スクリーニング検査（夜間自宅にて行う）を行います。重症であれば、その時点で加圧機械（CPAP）による治療を行うのですが、中等度の方は保険の規程によりPSGの検査を行わなければなりません。この地域でこの検査を行っているのは目下回生病院さんだけなんです。この病気は患者さんの訴えがないと見つけることが難しい病気ですが、この病気を見つけ、治療することでその他の病気が改善するなどの症例も増えてきております」。

## 患者さんへのメッセージ

～病院は設備も整っており優秀なスタッ

## DATA

TEL 059-386-7768

## 住所

鈴鹿市白子駅前12-25

## 診療科目

●内科●循環器科●呼吸器科

## 診療時間

午前／9時00分～12時15分

午後／3時00分～6時30分

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

## 休診日

木曜午後、土曜午後、日曜、祝日



フもそろっているの、何かあると患者さんとしては大病院志向になりがちです。しかし、そこに患者さんが押し寄せてしまうと、大病院の本来の使命が果たせなくなります。ですから必要な時に大病院の機能を発揮してもらうためには、まずはかかりつけ医を持っていただき、医療の棲み分けにご協力いただきたいですね。ひいては患者さんの為になるのです。私たちとしては、大病院で診てもらわなければならない患者さんを見落とさない事。たとえ症状が軽くても悪い病気がかかっている可能性があります。必要に応じて紹介させていただきます～

今後も地域のかかりつけ医としてご活躍されることでしょう。



ご趣味のジオラマ

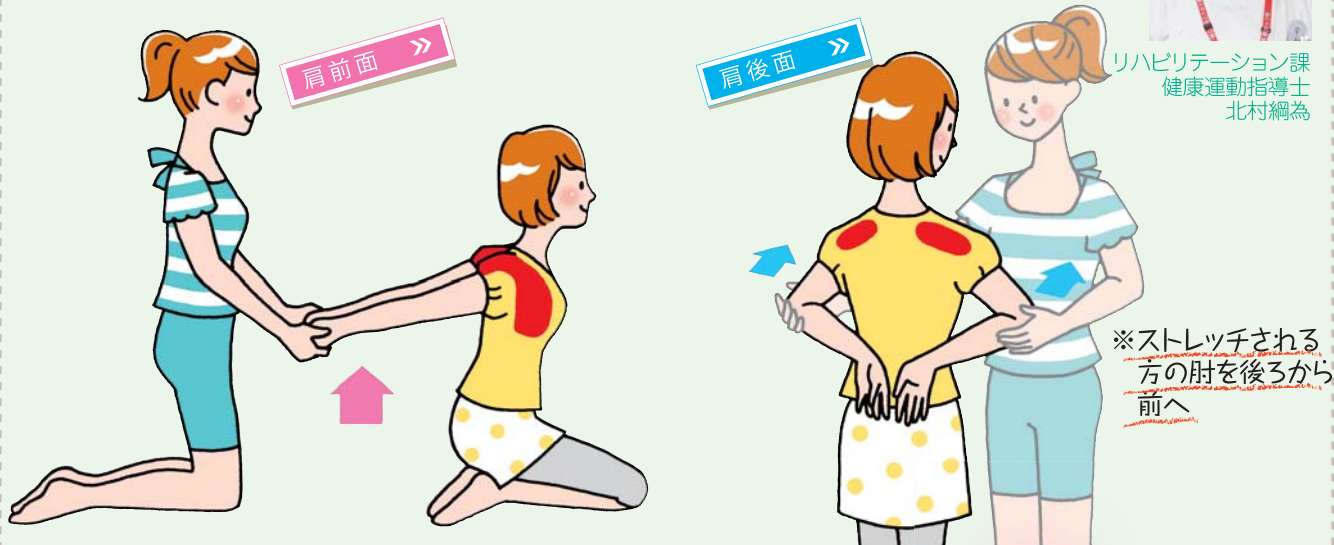


# パートナーストレッチ 肩首編

肩関節は可動範囲が非常に広い反面、不安定さがともなう構造です。筋肉の過度な緊張を取り、肩甲骨の可動性を高めておくことが重要です。



リハビリテーション課  
健康運動指導士  
北村綱為



特 徴

- ① 1人では十分に強く伸ばしきれない筋肉をストレッチできる
- ② 1人では伸ばしきれない方向へ筋肉をストレッチできる
- ③ 筋肉の力を抜いた状態でストレッチすることでさらにリラックスできる
- ④ パートナー相互のコミュニケーションをはかることができる

Characteristic

Caution

- 我慢や無理をしない
- 息を止めない
- 反動や弾みをつけない

※ストレッチされる  
方の肘を後ろから  
前へ

## 発信@

栄養管理室

管理栄養士  
岡 久美子



## ピックアップ食材 小松菜

### 小松菜入り 餃子



#### ●小松菜

小松菜はほうれん草と並ぶ冬野菜の代表であり、カルシウムと鉄が豊富な緑黄色野菜です。カルシウムはほうれん草の3倍多く含まれ、骨や歯の強化、イライラ解消効果などが期待できます。鉄分もほうれん草の方が多くと思われがちですが、小松菜の方が1.5倍多く含まれています。その他の栄養素としてカロテン（体の中でビタミンAに変わる）、ビタミンC、カリウムなどが多く含まれます。

#### ●栄養価の高い小松菜で餃子をつくりましょう!!

一般的に餃子は白菜かキャベツを用いますが、今回は旬の小松菜を使用し野菜の旨みがよくわかるよう薄味に仕上げました。餃子はたくさん野菜がとれるメニューですが、市販の餃子の皮は10枚で150Kcal（ごはん小茶碗軽く1杯分に相当）になります。具を薄味に仕上げても食べ過ぎは塩分やエネルギーの摂り過ぎに繋がりますので注意しましょう。

#### 【材料】 (32個分、4人分)

小松菜	200g
生しいたけ	石づきとって100g
豚挽肉	150g
生姜・にんにく	小1片
しょうゆ	大1
酒	大1
ごま油	小2
餃子の皮	32枚
焼き油	大2
味ポン	小4杯

#### 【栄養成分】 1人分あたり

エネルギー	330kcal
たんぱく質	14.2g
脂質	15.7g
塩分	1.3g (タレなし0.8g)
食物繊維	3.3g

#### 【作り方】

- ① 小松菜はみじん切りにし茹でて水にさらし、水気をしっかり絞る。
- ② しいたけ、生姜、にんにくはみじん切りにしておく。
- ③ ボウルに挽肉を入れてよく混ぜたら、①と②としょうゆ、酒、ごま油を加えてさらに混ぜたら、30分ほど冷蔵庫で休ませる。
- ④ 餃子の皮のまわりに水を塗り、皮で具を包む。
- ⑤ 熱したフライパンに油をひき餃子を並べる。お湯100ccを餃子の上にかけるようにしていれ、フタをして強火で焼き上げる。(5-6分)
- ⑥ 水分が飛んだらフタをあげ、焼き色がついたならできあがり。



# Xmasコンサート'2014



例年、12月に入るとクリスマスツリーをエントランスホールに飾り、病院の中もクリスマスムード色となります。クリスマスが近づく週末にはクリスマスコンサートを開催しています。1時間程度のコンサートですが、地域のボランティアの方々に出演していただいたり、職員によるハンドベル演奏、三味線演奏、院内保育所「回生キッズ」のかわいい子供達によるダンスの披露を行っています。今回はゲストとしてこの地域で活動しているオカリナ演奏「フィオーレ」の皆様にご参加いただきました。今後も、入院患者さんに和やかに過ごしていただけるように、また、季節感を感じていただけるようなイベントを定期的で開催していきたいと考えています。



## 医志蘇通 **C O L U M N**

### ご意見にお答えします。

**Q** 髪の毛の長い看護師さんが多いですが、ひとつにまとめた方が、清潔感があって、いいです。術後の処置の時なども、不潔っぽく感じました。

**A** ご意見ありがとうございます。看護師の身だしなみについて、関係部署に指導いたします。

### ◆◆ お褒めの言葉をいただきました ◆◆

初めての入院で、不安で不安で心細かったですが、皆さん優しく丁寧に接して下さったので、安心しました。雰囲気も明るかったので、入院中も暗い気持ちにならなかったです。ご飯も一人ひとり考えてくださり、感謝しています。お仕事、頑張ってください。尊敬します。

**A** 今後も患者さんが安心して入院していただける様に職員一同適切な看護に努めていきます。

## 第 6 回 亀山市脳卒中 市民講座開催 ～亀山市文化会館にて～

11月2日(日) 亀山市文化会館にて第6回亀山市脳卒中市民講座を開催いたしました。当日は大勢の市民の皆さんにご参加いただき、脳卒中センター長金丸医師をはじめ4名の医師により脳卒中に関する講演を行いました。



## ほっと smile 第1回 ベースボールセミナー

平成26年10月5日、当院にてベースボールセミナーが開催されました。野球に関する怪我と動作について『正しく知る』ことをテーマに第1部は福田亜紀医師に野球肘の病態と治療、肘についての講演、第2部は佐久間雅久理学療法士が選手を怪我から守るためセルフチェックとストレッチングについて、実技を中心に行いました。特別講演では、元阪神タイガースのトレーナーでBCSベースボールパフォーマンスの前田健氏をお招きし、『投球動作の仕組み超詳細～指導者もプレーヤーも今後は知って当たり前』として、投げる動作のメカニズムについて、具体的にご講演いただきました。参加者から「大変分かりやすく良い勉強になった。学んだことを参考にプレーしていきたい」「体の使い方が子供に教えられなかった、間違った理解で伝えていたので訂正できてよかった」など、関心の高いご意見をいただきました。今後も参加された方のご意見を参考に選手のパフォーマンス向上に向けた取り組みを継続していきます。



前田健氏特別講演



### 編集後記

今回は「新年のご挨拶」を中心に、医療連携紹介などをお送りいたしました。皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。



病院のボランティアの方に毎週美しく生けていただいております。(病院交際)

## 鈴鹿少年野球教室

今年も鈴鹿少年野球教室が12月6日(土)に開催されました。14チーム約200名の子供達が参加。阪神タイガースOBの選手で作る「天地会」のメンバーの吉田義男元監督らによる指導を受け、真剣に取り組んでいました。



## 鈴鹿シティマラソン

12月14日(日)第17回鈴鹿シティマラソンが鈴鹿サーキットにて行われました。当日は医科学相談コーナー、救護班を設置して当院から専門医師をはじめ多くのスタッフを派遣し走者のサポートを行いました。



## 第11回健康セミナーを開催しました。

12月6日(土)開催の健康セミナーでは、「ストレスとの上手な付き合い方」、「聴いて見て触れて五感を楽しみましょう」、また「腰痛対策の講話と実技」、各測定コーナー等、大盛況でした。皆さんのまたのご参加をお待ちしております!



## 看護部山田課長表彰

一般社団法人三重県病院協会から、平成26年度看護関係者知事表彰を受けました。昭和62年より勤務し、平成13年には脳卒中センター立ち上げに関わり、鈴鹿市脳卒中市民講座においても医師と共に地域交流の役割を担い、今回の表彰となりました。



### 病院の理念

### 生命への奉仕

### 病院の方針

- ▶ 地域の基幹病院として医療と健康の増進に貢献します
- ▶ 個人の尊厳を守ります
- ▶ チーム医療を推進し医療の質を向上させます
- ▶ より安全で高度な医療を提供します
- ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます

鈴鹿回生病院 広報委員会

〒513-8505 三重県鈴鹿市国府町112番地1

TEL059-375-1212 mail:info@kaiseihp.com